

令和5年度自衛隊統合演習(実動演習)について

【演習の目的】

自衛隊統合演習(実動演習)は、我が国の防衛及び警備のために必要な陸海空自衛隊相互間の連携要領、いわゆる「統合運用能力」の維持・向上のために実施します。

【演習の沿革】

自衛隊統合演習は平成18年度統合運用体制移行後、16回目となります。実動演習と指揮所演習を毎年交互に行なっており、本年度は実動演習を実施します(実動演習は9回目)。

【演習の実施場所】

日本周辺海空域、自衛隊施設、米軍基地等において、様々な訓練を実施します。

【演習の実施期間】

令和5年11月10日(金)～11月20日(月)の間(前後に準備期間及び撤収期間を設定)で予定しています。一部には夜間及び土日を含む演習となりますが、皆様の生活に支障がないよう十分に配慮いたします。

【演習の内容】

演習の目的に基づき、我が国防衛のための3自衛隊の行動を演練します。このため、陸上、海上、航空作戦及び統合輸送等の全てを包含した総合的な演習となります。我が国防衛のための自衛隊の即応性を向上させることを通じ、皆様の安全・安心確保に資することができるものです。

令和5年度自衛隊統合演習（実動演習）について

その他関連する訓練

- 統合後方補給
- サイバー攻撃等対処
- 協同基地等警備
- 宇宙状況監視に係る連携
- 統合電磁波作戦訓練
- 原発防護訓練



統合防空ミサイル防衛



空挺作戦



水陸両用作戦




統合対艦攻撃



※九州及び沖縄におけるシミュレーション訓練を含む。

令和5年度自衛隊統合演習(実動演習)の 北海道における訓練について

同演習において実施する北海道内の訓練は、

① 航空作戦(統合防空ミサイル防衛訓練)

千歳基地、稚内分屯基地、当別分屯基地、奥尻島(奥尻分屯基地、旧奥尻空港、旧青苗中学校、徳洋公園)

② 統合電磁波作戦訓練

留萌駐屯地、奥尻分屯基地、駒ヶ岳演習場、函館駐屯地

③ 機動展開訓練

釧路港(美幌駐屯地～(自走)～釧路港)

を予定しています。

訓練内容は調整中であり、今後調整により変更の可能性があります。

北海道内で実施を検討している訓練内容

①航空作戦(統合防空ミサイル防衛訓練)

陸上自衛隊の高射特科部隊、海上自衛隊のイージス艦、航空自衛隊の航空部隊等が北海道・東北沖で実施される統合防空ミサイル防衛訓練に参加し、侵攻する航空機等への対処についてその連携要領を演練します。

【期 間】 令和5年11月10日(金)～21日(火)
【参加部隊】 陸上自衛隊:高射特科部隊 海上自衛隊:イージス艦 航空自衛隊:航空部隊、高射部隊、警戒管制部隊
【展開規模】 人員約50名 F-15×6機(基準) (宮崎県、新田原基地より展開)



北海道内で実施を検討している訓練内容

②統合電磁波作戦訓練

統合電磁波作戦訓練は、統合防空ミサイル防衛訓練に連携して行われます。
本訓練のため、陸上自衛隊の電子戦部隊が航空自衛隊奥尻島分屯基地、駒ヶ岳演習場及び陸上自衛隊函館駐屯地にそれぞれ展開し、電波状況の確認等を実施します。

【期 間】 令和5年11月8日(水)～22日(水)

【参加部隊】 陸上総隊及び西部方面隊 約48名(車両(NEWS含む。)×18両)

- 陸上自衛隊留萌駐屯地 約16名(車両×5両)
- 航空自衛隊奥尻島分屯基地 約12名(車両×5両)
- 駒ヶ岳演習場 約10名(車両×4両)
- 陸上自衛隊函館駐屯地 約10名(車両×4両)

訓練予定場所 (北海道)



訓練イメージ



陸上自衛隊 NEWS*

※ NEWS:Network Electric warfare System(ネットワーク電子戦システム)
電波の収集・分析・妨害等を実施

北海道内で実施を検討している訓練内容 (③機動展開訓練)

機動展開訓練では、陸上自衛隊美幌駐屯地から陸上自衛隊那覇駐屯地へ、民間船舶等を活用した16式機動戦闘車(MCV)の輸送を行います。

この間、北海道では、美幌駐屯地から釧路港までの間、公道の自走を行います。

【輸送区間】

美幌駐屯地～(自走)～釧路港～(民間船舶)～大分港～(自走)～築城基地～(C-2輸送機)～
那覇基地～(自走)～那覇駐屯地

【期 間】 令和5年11月3日(金)～21日(火) (本期間中に往復の輸送を実施予定)

【参加部隊】 北部方面隊 約10名(MCV×1両)

